



**** 目次 ****

クラブ紹介特集・・・・・・・・・・・・ 1～3
寄稿（秋元会長、立澤副会長）・・ 3～4

クラブ紹介

継続会員の皆様、そして新会員の皆様 4月より新年度の学習会が始まります。この数年はクラブ活動もコロナ禍でご苦労され何とか活動されていたのではないのでしょうか？そのような状況の中、学習会講座で良識を広め、さらにクラブ活動でご活躍の諸兄弟がおられます。学習会以外でも同好の志と仲間作り、健康作りに日々励まれ、充実した暮らしをされております。今年度より「パソコンクラブ」も再開予定です。各クラブで会員募集を行っていますので、是非クラブ活動に参加され健康な毎日をお過ごしください。

① 美術鑑賞クラブ 代表 石橋 進 市原市山倉 172 ☎ 0436-36-5054

携帯☎ 090—6790—5993 Email: s_isibasi@qk9.so-net.ne

当クラブは首都圏の美術館、博物館の鑑賞会を、年/6回実施します。

新型コロナ禍の為、2020、2021年度は全ての計画はやむなく中止いたしました。

2022年度も下表の通り、菱川師宣展と山種(美)竹内栖鳳展実施に留まり年明けの国立西洋美術館は、第8波の状況不明と館側の入場規制等で取りやめました。

今後の予定は、安全に団体鑑賞が出来ることを確認の上、ご案内申し上げます。

【1】2023年度 鑑賞会予定表

館名	実施予定日	摘要
東京藝術大学	2023.04.11	美術学校と改編東京藝術大学,卒業生展
東京国立近代美術館	“ 05.09	重文 鮭 老猿 湖畔 黒き猫 黄瀬川陣 麗子他
東京都美術館	“ 07.11	静かで過激なマチイスの探究
国立新美術館	“ 09.13	テート美術館蔵展 アートの光探究
国立西洋美術館	“ 11.13	大キュビズム最初で最後レポリューション展
上野の森美術館	2024.01.09	連作の情景を發明、モネの目
(3月は未定)		

【2】会員募集！！ (新会員、継続会員)

募集要項

- (1)鑑賞会:年度/奇数月 6回実施 原則第2(火曜日)
- (2)日程:JR 千葉駅集合、各、美術展、2時間程度鑑賞後、自由解散
- (3)参加費用:入館料 昼食代 交通費等
- (4)会費: 年会費 ¥1,000
- (5)申込先: 美術鑑賞クラブ窓口

② 海外「Bon voyage」クラブ 会員募集

コロナ禍での生活に疲れ果てた日々ですが、学習会会員の皆様にはお変わりなく過ごされていますか？

コロナ禍も減少傾向ですが油断は禁物です。感染者0になるまで十分な対応で過ごしましょう。クラブは海外旅行を扱っていますが、コロナの影響で3年間企画が出来ませんでした。最近一部の国では入国制限を緩和されていますので、3年ぶりにベトナムハノイ・ハロン湾を企画しました。会員の皆さんはこの時を待っていたように多数の参加希望を頂きましたが、航空機の座席数も制限があり全員お受けできるかです。

今後はコロナも終息に向かうでしょうから、クラブ会員念願のポルトガル旅行を企画する予定ですが、ウクライナ・ロシアの問題があり、航空運賃の燃料サーチャージが高額の為暫く様子を見て企画する予定です。取り敢えず近場のアジアからスタートをしていきます。

クラブではコロナ禍の中で親睦を兼ねて国内旅行を数回実施しました。沖縄・北海道等です。他にも食事会等も実施しました。

学習会会員・新規入会の皆様海外旅行クラブに入りませんか、楽しい旅を一緒に楽しみましょう

海外 Bon Voyage クラブ

部長:石垣 嘉雄

③ ハイキングクラブ

14106 境屋 邦夫 携帯 080-5422-7175

ハイキングクラブは、平成19年に京葉学園卒業生を中心としたハイキング好きの仲間71名が集まり、「健康的な体力の維持と会員相互の親睦」を中心に発足しました。

クラブ活動の内容は、歩くことを楽しみに、県内を中心として現地集合によるハイキングを年間3回実施しています。バスハイクは、当面実施いたしません。その行先は、会員の安心、より楽しさを考慮して、事前に役員による現地への下見を行い、コース確認をしてから参加者を募って実施いたします。常に安全第一を心がけています。

皆さんと一緒に、素晴らしい自然の中を歩いて、健康づくり、仲間づくりに楽しみましょう。

因みに、令和5年度活動計画は、現地集合によるハイキングを6月に高麗山から湘南平コース、12月に御宿海岸コース、3月に等々力溪谷コースを計画しています。

年間会費は ¥1,000 です。参加費は、現地集合のため無料です。どちらも集合写真を無料で配布しています。ハイキングクラブの入会を役員一同、心よりお待ちしております、

④ パソコン・クラブ 会員募集

生涯大学校卒業生学習会会員・新規会員の皆様、長いコロナ禍の中で如何過ごされてきました。最近ではコロナ感染者も減少傾向にありますが、まだ安心できませんので油断はせず十分な対策をしてお過ごしください。

長年継続されていたパソコン・クラブが休部していましたが、4月から再開する事になりました。今は我々高齢者世代においてもパソコンはなくてはならない器具です。

公的機関の書類申請・受領・金融機関の手続き、買物、娯楽など全てがパソコンによって可能になった時代です。我々もこれに乗り遅れては、何もできなくなってしまう時代です。我々もこれに乗り遅れては、何もできなくなってしまう時代になったのです。

再開にあたりパソコンの初心者を対象にスマートホンを含めた講座にして、親睦を含めたパソコンクラブを予定しています。まず初めてみようという方はパソコンがなくても、スマートホンがなくてもパソコン・クラブを覗いてください。必ず期待に応える事でしょう。

パソコン・クラブでは皆様の入会をお待ちしています。

4月から毎月1回、講師は生涯大学関係者から募集します。

費用は入会金¥500 年会費¥1000 講座費用は会場費・講師謝礼等を会員数によって決めたいと思います。

パソコン・クラブ入会によって、あなたの人生は変わります。楽しみのある人生を皆様と一緒に楽しみましょう。

パソコン・クラブ 再開代表:石垣 嘉雄

「私の講師選定手法」 14003 会長 秋元 和信

学習会運営の特徴として、会員から講師を推薦出来る仕組みがある。自分が推薦した講師候補が採用され、その講師が会員間で好評であれば、推薦の仕甲斐があることになり、学習会への参加意欲が益々高まってくる。しかも年間二十人の講師から先進的・専門的な講演・公演を、年会費一万円で楽しめるコスパの良さは、世間一般にある生涯教育講演では実現できない強みとなっている。

私の主な講師探索方法は、NHKラジオの「深夜便」の活用にある、朝方の四時から「心の時代」という番組があって、夢現に聞いた講演に感銘をうけることがよくある。NHKの力はたいしたもの、国民の中から特色ある業績を上げた人を選抜し、その人生をコンパクトに集約して紹介してくれている。番組のディレクターが的を射た質問を投げかけ活動の核心に迫るので、その話の面白さ・内容の深さに心を奪われたのである。

朝になったらその番組についてNHKのホームページで講師の名前を確認し、その後、秋田宏さんのブログ「明日への言葉」を検索する。

秋田さんは毎日の放送内容を活字化してブログに掲載している方である。その歴史は長く、2011年2月から始まり、現在に至っている。一日も休まない積み重ねは、驚嘆に値する。ブログでは講師の氏名の漢字表現や肩書、経歴等も記録されている。しかも放送当日の午前9時頃には活字となってブログにアップされている早業である。

こうして講師候補者を見つけた私は、更にウィキペディア等で著作物や講演記録等の追加情報を集め時には最新著書を図書館から借用して、講師に求める講演テーマを考えている。

そのほか新聞の「人」欄や、地域ニュースから千葉県や協定を結んでいる千葉大学に関するエピソードを見つけて、講師候補としての検討を行っている。

学習会の肝は講演・公演の面白さと楽しさと教養の涵養にある。今後も身の回りの情報に注意を払って、学習会に相応しい講師候補者を発掘し続けたい。 終

「山行の始まり」

16079

副会長 立澤 佑良

あれは、いつ頃だったか？中学生になり、家元を離れ父の会社の部下宅に下宿していた頃、父と共に屈強な人たちが下宿に来た。聞けば、大学時代に山岳部所属し、この度ヒマラヤ遠征隊に選ばれたお祝いをするのだと言う。「ヒマラヤの山」の意味も解らず「山」に興味を持った最初かな！海洋少年団で遠泳訓練、カッターの漕艇訓練、手旗信号訓練(いずれも現代には無い言葉かな?)、に入れ込み海上自衛隊(海軍航空隊のダメーとして)に憧れる私に疑問を持った父が、山男を紹介し、毎月のお土産の読物がヒマラヤに関するものが多くなり、興味の方向を変えたのは事実。代々続く僧家の長男の私が、僧籍に入らなかった

(過去にも造反者はいたらしい)のは、父親の影響が大きい。父は僧家でありながら某キリスト教の某大学に進み、日本に留学していた人々と中国大陸で特高警察と追いかけてこしていた様なユニークな人物。

仏教系の大学で学び直したが生家の浅草周辺で、軟派な人生を送っていたようです。

ただ読むのではなく、意味を考えて！と強制する訳ではなかったが経本を渡したり、鉱石ラジオの組み立てキットを与えたり(驚天動地 こんな小さなラジオで『赤胴鈴之助』が聴ける!)世の中もこの回路と同じで互いに助け合っていると教え、組み立て後の達成感も味わいさせて、指導してくれた。(後に分析、標準化を職務とした時、多いに役立った)。朝から檀家衆と樽酒を酌み交わし、母に浅草の味と祖母の味(富浦の南無谷)を要求していた父が、山岳部出の山行に同行させて何度も挑戦してやっと素晴らしい眺望に会える事を教え、カメラを与え、景色の捉え方、足元の可憐な花たちの命の観察と周辺の観察が大事なことを教えてくれた。特高の取調べで左肺を潰していた父は高山は無理でしたが、数度の山行と日々の生活の中で口で教えるのではなく、背中で教えてくれた。これが学生時代、山岳部、柔道部で過ごし国内、海外(特にスイスアルプス)の山々に挑戦した私の原点かな！(多趣味もDNAかな!)皆様の思い出は?